

新理事長、新学園長の選任にあたって（教職員総会にて）

2014年6月20日 金曜日

京都造形芸術大学学長 尾池和夫

京都の桜は今、緑の濃い葉桜になり、木陰を提供してくれます。やがて秋には桜紅葉になり、冬はそれが散って暖かい日差しをもたらせます。

一方、樟や瓜生山の赤松は常緑で、古い葉が静かに散るときには、若葉がその後をすでに飾っているという、静かな世代交代をします。

今回、徳山詳直理事長から「理事長職を退き、後任の理事長に徳山豊専務理事を推挙したい」という提案があったとき、桜や楓のように、人びとが集まる目立つ変化ではなく、この瓜生山の常緑の赤松の葉が静かに入れ替わるような理事長の交代だと、私は思いました。

専務理事の徳山豊さんは、ボストン大学で経営学の学位をとられた方であり、1998年から理事を、また1999年からは常務理事として、16年間にわたって学校経営に携わってこられた方です。さらに、2003年から2013年までは、専門学校と日本語学校の法人理事長として学校を経営し、入学生の減少が著しいという困難な時期を乗り切る手腕を発揮されました。徳山詳直現理事長の、設立と在任48年の歳月の重みに比べるだけの力量を発揮して、この学校法人瓜生山学園をさらに育てていかれることと、私は大いに期待しております。徳山豊新理事長のもとで、私もあらゆる面で力を尽くす所存ではありますが、同時に、教職員の皆さまにも、新理事長のもとで、さらなる尽力をお願いしたいと思います。

国公立大学と異なり、学校法人は、設立者の教育への強い思いがあつての存在であります。この瓜生山学園も、徳山詳直理事長の理念のもとに生まれ、見事に育てられてきた学校法人であり、「京都文藝復興」に描かれた設立の理念を理解し、その思いのもとで教育と研究と社会貢献に従事する教職員の皆さんの手で仕事が行われています。また、すでに多くの卒業生たちが世界で活躍し、この学園の理念を受け継いで行動しています。卒業生や教職員の熱意に応えながら、徳山詳直理事長によって形づくられてきた建学の精神を継承し、さらなる発展をもたらせることが、瓜生山学園にとって極めて重要なことです。その観点からも、徳山詳直理事長が、徳山豊専務理事に理事長職を引き継ぐと今回決断されたことに、たいへん大きな意義があると思うと同時に、私はこころから敬意を表したいと思います。

今回、徳山詳直学園長が同時に誕生して、引き続き学園経営の後見役を努めることとなります。規程では、学園長は藝術立国の理念の象徴的存在であると規定されています。日頃から「核廃絶と世界の平和のために、命をかけてたたかう」と言われてこられた設立者で

すから、黙って建っているという象徴の方は、昨年建立された黒御影石の「藝術立国之碑」に任せておいて、新学園長には、藝術立国の理念を、折に触れて、力強い言葉で学生たちに語っていただきたいとお願いして、新理事長、新学園長選任にあたっての私のメッセージといたします。

ありがとうございました。